



～ スポーツの秋 ～

学校長

日中に暑さを感じながらも、朝晩に少し涼しさを感じられる季節となりました。

10月は、年度前期の締めくくりです。

運動会、避難訓練、水泳学習や校外学習、5年の宿泊体験学習など、これまで滞りなく実施することができましたのも、学校を支えてくださる地域、保護者の皆様方のご支援の賜物と心から感謝します。

さて、10月14日(月)は「スポーツの日」です。長年、10月10日が「体育の日」とされ、晴天率の高い10月に運動会や健民祭が実施されてきました。

文部科学省が掲げる学校体育のねらいに「心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」と、あります。

子どもたちは、体育の時間に運動を楽しむことで協調性や安全への理解を深め、心身の成長を育みます。そして、こうした経験が将来の健康維持や生涯にわたる運動習慣の基盤にもなる、というものです。

一方、スポーツには「する」「みる」「支える」という三つの視点がありますが、これに「知る」という要素を加えることが重要だと言われています。

ルールや技能、態度などを学び、更にはスポーツの歴史や文化を知ること、単に競技を楽しむだけでなく、スポーツそのものへの理解も深まっています。

オリンピックやパラリンピックの選手たちがみせてくれた数々のドラマや競技への思いを知ること、大リーグの大谷選手など

プロの試合や偉業をテレビ観戦することを通して、世界で活躍する選手たちがどのように努力し、戦っているのかを知り、その生き方を学ぶことができるのです。

また、指導者やボランティアなど、スポーツを支える人々の役割を理解することも、より幅広い視点でスポーツに親しむことにつながります。

小学校の体育では、子どもたちが運動の基礎的な技能を習得し、チームワークやフェアプレーの精神を学びますが、スキルだけでなく、運動を楽しむことや他者と協力して安全に運動する態度等を重視し、全ての子どもが自信をもって取り組めるような授業づくりを目指しています。

ご家庭や地域においても、学校体育・スポーツの「ねらい」や「視点」を知ることが大切です。

子どもたちの学校での学びを生かしながら、大人も一緒に運動に親しみ、楽しんでいくことでこそ、子どもたちが生涯にわたって、豊かなスポーツライフを過ごせるような力を身に付けられるのだと思います。

お子様と一緒に数々のスポーツに触れ、「する」「みる」「支える」に加えて「知る」楽しさを感じながら、健康な生活習慣を育むサポートをしていただければと思います。

快晴の清々しい天気のもと、大人も子どもものびのびと身体を動かし、スポーツの秋を楽しみたいものです。

